



左より拜殿・幣殿・本殿（覆殿）

た江戸中期作成の「伊万里郷古地図」に「豊姫社」として絵図入りで記載されています。また
 ※記紀Ⅱ日本最古の歴史書である古事記と日本書紀

◎祭神 豊姫命(又の御名 豊玉姫)

あまてらすすめのおおかみ うかのみたま
 天照皇大神 倉稻魂神ほか

*境内東側の高台に明治期に集落の各地より遷座して合祀された七座の石祠が安置されて

います。

(「石造物」の項参照)

◎例祭

*春祭(祈年祭) 三月二十日

*夏祭(祇園祭) 七月二十九日

*大祭(新嘗祭) 十二月十日

その他 元旦祭、田祈禱、秋季願成就など

◎社殿

*本殿は柿葺流造で高欄や脇障子を備えています。本殿全体が覆殿によって保護されています。

平成九年に覆殿の改修工事が行われました。

*拜殿は瓦葺入母屋造

◎由緒

記紀神話の神を祀る古社で、創建年代は明確ではありません。また
 せんが、明和四年(一七六七)銘の棟札が現存しています。ま



拜殿前の庭はゲートボール場となつ

ていますが、大木の点綴する中での
 緑陰は快い憩いの場となっています。

・豊姫神社(山形 宿分)

総天井が絵馬になり、また絵馬の額も見られます。境内の周りは
 うっそうと繁った杉の大木が林立して、荘厳な雰囲気をもたらして
 ています。

またケヤキやイチヨウが見られますが、イチヨウの実がないこと
 から雄株と思われれます。また大きなウラジロガシの古木が繁り、サ

クラの植え込みがあります。車道脇にはツツジが春の花の香りを漂わせます。境内周辺の杉林は、
 松浦運動広場と接していますが、樹林の中には秋になるとアカメガシワが赤く染まっています。

五、豊姫神社(旧山形村社) 山形 宿分



豊姫神社の古木

平成四年に区民の奉賛によって老朽化した鳥居（造立年銘の刻字は不鮮明ですが、丁未二月の文字が読みとれますので、天明七年（一七八七）か（一八四七）のどちらかと思われます）の改修や、参道の整備工事が行われました。

◎奉納物 文化財等

拝殿には天保十二年（一八四一）の絵馬など三掛や、格天井には百二十枚の絵馬がはめ込んであります。

また、拝殿入口の軒下に「万葉昌」（万世まで栄える）

これは郷土山形の書家・松浦敬一（樋口雄一氏の雅号）

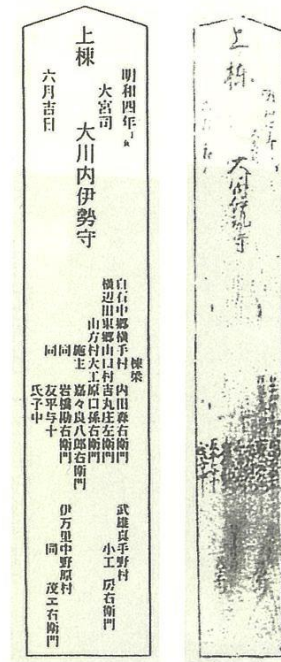
と書かれた大扁額が掲げられています。と書かれた大扁額が掲げられています。松浦小学校にある



「青於藍」（藍より青し。弟子が師より

りもすぐれること）や久良木の乙姫神社など近在各地に氏の筆跡が見られます。

◆平成二、四年の国道四九八号線の改良工事に伴う松浦バイパス宿分四号線の新設にあたり、神社の西麓



明和4年(1767)の神社棟札

を調査中に古棺が発見され、また近くに「歓喜天徳」石祠（元禄十二年・一六九九）も祀られていて、伊万里市はこの周辺一帯を「周知埋蔵文化財包蔵地」に指定しました。往時よりこの豊姫神社周辺は神仏を祀った「霊地」だったのではないのでしょうか。

◎「頭渡し」の事

「頭送り」とも言い、その年の宮座から次年度の宮座へ神社の祭具や帳簿類を渡す（引き継ぐ）儀式のことです。宮座とは、その年の神事に奉仕する氏子のこと、頭屋、宮講、年番神主などとも呼ばれ、豊姫神社では例年一二月十日に交代が行われます。

※今も行われている古式に則った「鬮当ノ儀」

大祭時に次期の宮座候補者のそれぞれの名を記した和紙の小片（くじ）を三方に載せ、斎主がその上で大幣（祓串）を振り、その紙垂の先にくつついたくじの家が次の宮座となります。



格天井画